

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 26 日現在

機関番号：82620

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2017

課題番号：26560149

研究課題名(和文) 実演用能装束の保存継承に関する研究 能楽の包括的継承の一指針として

研究課題名(英文) A Study on the Preservation and Transmission of Noh Costumes for Performance :  
As a Guide to the Comprehensive Transmission of Noh Performing Art

研究代表者

菊池 理予 (KIKUCHI, RIYO)

独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・無形文化遺産部・主任研究員

研究者番号：40439162

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、能楽の芸態を形成する上で不可欠な能装束の伝承における危機的状況に鑑み、その実態調査により、能楽を取り巻く文化財の保護に関する包括的な研究を行い、分野横断的な検証を加えることを目的とする。主な成果は、1. 宝生家に伝来する能装束の修理状況等の整理、2. 染織文化財の修理材料の調査、3. 染織文化財の修理材料(補修裂)の物性評価であった。これらの成果は、平成29年5月に本編(73頁)・資料編(100頁)2冊組で報告書を刊行した。また、平成29年7月1、2日に開催された第39回保存修復学会においてポスター発表「実演用能装束の保存継承に関する研究 - 能楽の包括的継承の一指針として -」を行った。

研究成果の概要(英文)：The transmission of noh costumes which are indispensable in the noh performing art is in a state of risk today. The present study, by investigating the condition of noh costumes, how they are preserved, how they are repaired, attempts to study comprehensively the protection of cultural properties surrounding noh. In addition, it also seeks to conduct interdisciplinary examination on the matter. Major results of the investigation are: 1. examination and ordering of the condition of repair of noh costumes transmitted in the Hosho School; 2. investigation of the repair materials for textile cultural properties; and 3. evaluation of the properties of repair materials (repair fabric) for textile cultural properties. These results were published in a 2-volume report in May 2018, 73 pages of report and 100 pages of data. They were also presented in the poster session on the 39th meeting of The Japan Society for the Conservation of Cultural Property held on July 1 and 2, 2018.

研究分野：染織技術

キーワード：実演用能装束 包括的文化財保護

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の中核となる能楽研究は能本・歴史資料を中心に文献研究が主体であり文学の分野において進められてきた。一方、能道具に関する研究は美術史を中心に研究が進められ、能面は彫刻、能装束は染織、楽器は漆工芸、中啓は竹工芸・絵画の研究者の範疇とされてきた。それらは、各分野内で研究が行われ、分野横断的な見地からの研究は非常に乏しい。能装束に関しても染織史の分野でその技法や模様、伝来などに関する多くの研究が行われてきた。しかし、これらすべては能楽を形成する一つとして包括的に研究が行われるべきものであり、能楽の保護や継承を考える上においてはすべての分野の研究蓄積が生かされるべきだと考える。今後能楽という無形文化財を継承させる上で、周辺の有形文化財の伝承をもバックアップできる体制を整える必要がある。

## 2. 研究の目的

本研究は、能楽の芸能を形成する上で不可欠な能装束の伝承における危機的状況に鑑み、その実態調査から、能楽を取り巻く文化財の保護に関する包括的な研究を行い、分野横断的な検証を加えることを目的とする。

## 3. 研究の方法

本研究はこれまで有形と無形に分断された保護体制の中で保護対象と看做されず、対応が遅れている実演用の能装束の保存継承に焦点を当て、染織研究、修復研究、能楽研究そして実演家により、その制作・保存管理・修復に関する情報の整理分析を行い、問題点を検証することにより、新たな修復方法を見出す。

## 4. 研究成果

研究成果は、主に(1)宝生家に伝来する能装束の破損傾向・修理状況等の聞き取り調査の整理、及び(2)染織文化財の修理材料の整理、(3)染織文化財の修理材料(補修裂)の物性評価である。

### (1) 宝生家に伝来する能装束の破損傾向・修復状況等の聞き取り調査の整理

宝生和英(シテ方宝生流第二十代宗家)公益社団法人宝生会の協力を得て、従来の修理の確認、破損傾向とその原因の確認、実演家からの聞き取り、実演用能装束の修理の提案を行った。

#### 従来の修理の確認

実演用能装束は、演能前や虫干し等の際に応急処置的に補修を行うことが多く、オリジナルへの可逆性を重視する染織文化財の修理とはかけ離れた修理が行われていること。また、修理材料についても細かな検討を加えられてはいないことが明らかとなった。

## 破損傾向とその原因の確認

能には決まった着方法(出立)があり、それぞれの出立や所作(能の型)により負荷のかかる位置が固定するため、装束の種別ごとに出立を整理し、各装束の破損箇所について調査した(図1)。また、それぞれの出立に特徴的な所作を確認しつつ、負荷に関する情報を得よう考慮した。その上で、出立と装束にかかる負荷の関係について整理を行った。

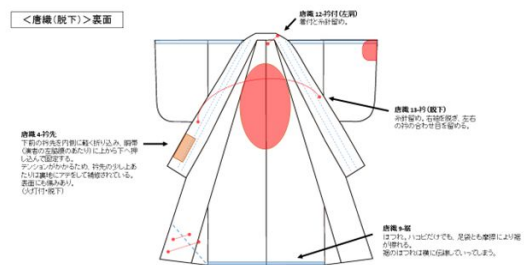


図1 出立【唐織(脱下)】の際の唐織(裏面)の損傷箇所

## 実演家からの聞き取り

聞き取り調査では、a.実演に耐えうる強度を確保しつつ動きに沿う裂の柔らかさを損なわないこと、b.薄物の場合は透け感も重視すること、さらにc.通気性も確保すること等の意見を受けた。それにより展示を目的とした染織文化財の修理と実演用能装束の修理には異なる視点からの検討が必要であることが解った。

## 実演用能装束の修理の提案

実演用能装束の修理は、基本的には、補修裂が装束の素材のしなやかさを損なうことのないよう、素材の選択には十分留意すること、舞台上で修理技術が目立たない配慮が肝要である。さらに、修理後の全体の強度は、完全には制作当初に戻らないことから、演能の際に、特に力のかかる箇所を想定した補強を行う必要がある。ただし、これらの修理方針の多くは、専門技術や素材に関わる知識が必要とされ、一つの装束に対して複数回以上の処置や修理が予測されることから、当初の姿を明確に記録し、新たな保存・修理計画を立てる資料となる「修理記録」が重要となる。これら「応急処置」も含めた修理は、主として専門家によって行われることが想定される。

一方、能楽師や宝生会のお手伝いの方で行われる損傷を防ぐ予防的な処置や軽度の損傷に対する「応急処置」は、普及方法の検討が今後の課題である。さらに、予防処置方法の検討や素材研究は、オリジナルをいかに保つかという視点を持ち合わせる必要もあるため、今後修理の専門家にとって染織文化財の修理と連動しながら検討すべき新たな課

題であるといえる。

## (2) 染織文化財の修理材料の整理

東京文化財研究所の資料閲覧室に所蔵されている美術工芸品の修理報告書（昭和40年～平成25年）から、染織文化財に関する修理の情報を整理した。修理情報からは、昭和40年代前半／昭和40年代後半から昭和50年代／昭和60年代以降と修理材料が変わってきていることが明らかとなった。本研究では、(3) 染織文化財の修理材料（補修裂）の物性評価において、これらの中からいくつかの修理材料を抽出し適正の検証を行った。

## (3) 染織文化財の修理材料（補修裂）の物性評価

現在使用されている補修裂17種とJIS添付白布（絹）（表1）を用いて、織組織の観察と物性評価（通気性、剛軟度、強伸度）を行った結果、織の状態や糸の太さなどによって、物性が大きく異なることが明らかとなった（図2、図3参照）。染織文化財や実演用能装束の補修裂の選定は、補修に使用する生地求められる条件を明確にした上で行う必要がある、そのためには、さらに多くの補修裂の情報を収集することが望まれる。

番号	名称
4	法被 浅葱地増垣雛籠模様の補修裂（表地）
12	厚板 藍白段羅目鉄線花模様の補修裂（裏地）
6	濃端 萌黄地花唐草菱葉模様の補修裂（表地）
7	濃端 萌黄地花唐草菱葉模様の補修裂（裏地）
8	厚板 緑地雪持柳桐扇梅片身發模様の補修裂（表地）
9	厚板 緑地雪持柳桐扇梅片身發模様の補修裂（裏地） 厚地
9	厚板 緑地雪持柳桐扇梅片身發模様の補修裂（裏地） 薄地
10	厚板 藍白段羅目鉄線花模様の補修裂（表地・薄地） 白
10	厚板 藍白段羅目鉄線花模様の補修裂（表地・薄地） 藍
10	厚板 藍白段羅目鉄線花模様の補修裂（表地・薄地） 緑
11	厚板 藍白段羅目鉄線花模様の補修裂（表地・厚地） 白
11	厚板 藍白段羅目鉄線花模様の補修裂（表地・厚地） 藍
13	濃端 白地枝重桜模様の（子方）の補修裂（表地）
14	濃端 白地枝重桜模様の（子方）の補修裂（裏地）
17	厚板 紫地入子菱葉丸紋散し模様の補修裂（裏地・裏製用）
15	厚板 紫地入子菱葉丸紋散し模様の補修裂（表地）
16	厚板 紫地入子菱葉丸紋散し模様の補修裂（裏地・補強用）
縫箔	浅葱地五枚笹柳板模様の補修裂（表地）
JIS L 0803	染色堅ろう度試験用添付白布 絹（6目付相当）

表1 補修裂の番号および名称

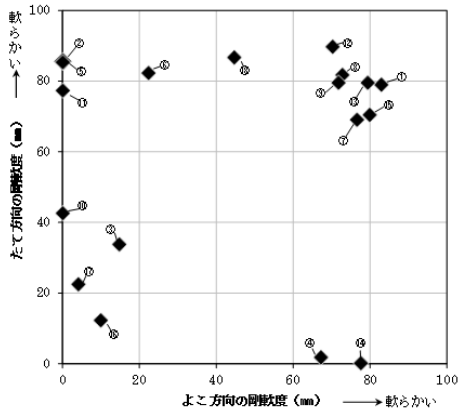


図2 各補修裂のたて方向とよこ方向の剛軟度の関係

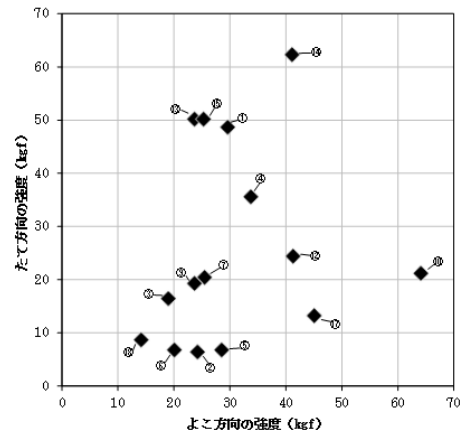


図3 各補修裂のたて方向とよこ方向の強度の関係

## (4) まとめ - 能楽の包括的継承の一指針として -

本研究を通じて、文化財を保護管理する立場と実演家の間には、能道具に対する意識に大きな隔りがあることがより明確になった。しかし、能楽を取り巻く有形文化財の保存、継承が立ち遅れていることに危機感を抱いている点は共通している。そのためには「歌舞伎」に見る無形文化財と選定保存技術、記録作成等の措置を講ずべき無形文化財等の類型による伝承システムを参考にしつつ、さらに有形文化財をも組み入れた「能楽関連文化財群」としての包括的継承システムの構築が急務であると痛感した。

## 5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計1件)

第39回保存修復学会ポスター発表「実演用能装束の保存継承に関する研究 - 能楽の包括的継承の一指針として -」2017年7月1、2日、金沢歌劇座

〔図書〕(計2件)

平成26～29年度 科学研究費 挑戦的萌芽研究 『実演用能装束の保存継承に関する研究 - 能楽の包括的継承の一指針として -』本編(73頁)・資料編(100頁)2冊組、2017年5月刊行。

〔産業財産権〕

該当なし

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

菊池理予 (Riyo Kikuchi)  
東京文化財研究所 主任研究員  
研究者番号: 40439162

(3)連携研究者

岡田 宣世 (OKADA Nobuyo)  
女子美術大学 名誉教授  
研究者番号：70185445

田中 淑江 (TANAKA Yoshie)  
共立女子大学 教授  
研究者番号：70636456

後藤 純子 (GOTO Sumiko)  
共立女子大学 教授  
研究者番号：20413057  
(平成27年度より連携研究者)

(4)研究協力者

宝生 和英 (HOSHO Kazufusa)  
宝生流 第二十世宗家

門脇 幸恵 (KADOWAKI Yukie)  
独立行政法人日本芸術文化振興会

北島 恭代 (KITAJIMA Yukiyo)  
染織品保存修復

田代 斐音 (TASHIRO Ayane)  
共立女子大学 助手

長谷川 紗織 (HASEGAWA Saori)  
共立女子大学 助手

橋本 かおる (HASHIMOTO Kaoru)  
東京文化財研究所 研究補佐員

後藤 純子 (GOTO Sumiko)  
共立女子大学 教授  
研究者番号：20413057  
(平成27年度より連携研究者)